日系人のホームステイ

岡島舞子

今年の７月の下旬にアメリカのニューヨークから日系人の女の子が私の家にホームステイしに来ました。彼女はミャンマーと日本のクオータで日本語は苦手と聞いていたので私は少し心配でした。なぜなら私の家では今まで外人をホームステイさせた事がないのです。だけど私の父も母も日本語しか話せないのに許可をしたなと私は驚きました。逆に私のほうが驚きました。でも、家に来た子は私と同じ１８歳で流暢に日本語が話せてドリフと志村けんが大好きな子だったのです。私もドリフのコントや志村けんが大好きだったのですぐに仲良くなり、ドリフの動画やコントを一緒に見て自分達の一番好きなコントを教えあったりしました。私の同級生でもドリフを知っている子が少ないのですごく驚きとても嬉しかったです。いつも会話は日本語だったけれど、私は英語を練習したかったので家にいる時はなるべく英語で話しかけ発音の矯正を手伝ってもらいました。日本語英語で覚えてしまった単語も多くあり、私が上手く発音出来ない時は何回もリピートしてくれてきちんと私が発音出来るまで続けてくれました。彼女は私の家に一週間ステイしました。とても短いので二人で沢山のところに朝から晩まで色々な所に行きました。渋谷や原宿に行ったり、花火大会に行ったり、海に行ったり夏休み中に私が通っている東京の高校で落語を聞く講演会が有ったので２人で制服を着て行ったりしました。彼女は高校の制服を着たことがなかったのでとても喜んでいました。学校の先生も喜んで受け入れてくれたので最初は緊張していた彼女でしたが落語が始まるとお腹を抱えて笑っていたので一緒に来て良かったと思いました。彼女がアメリカに帰った後、改めて私は誰にでも経験出来ることではないと思いました。家に英語の先生が来てくれて教えてくれた感じです。彼女だって「日本語がもっと上手く話せるようになりたい」と思っていたはずだけど多くの時間を割いて私の英語の練習につき合ってくれました。私が「来年アメリカに留学したい」と言ったら「舞子なら大丈夫だから、じゃあ今から英語ね」と言って練習してくれました。こんなに応援してくれているんだから、留学に不安に成っている場合じゃなくてアメリカに行ったらすべてを吸収して２倍も３倍も成長して見せると思いました。

「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」

http://morinochojo.jimdo.com/

宮脇さんが昨年４月に提唱した「森の長城プロジェクト」という優れたアイデアは、東北の人たちが最も恐れている津波から人びとを守る「森の防波堤」をつくるために、東北の人々の思いがこもった大切なガレキを焼却したり、捨てたりせず、逆にそれを東北を守るための「森の土台」として活かすという取り組みで　す。この「森の長城」は、震災で犠牲となった方々の鎮魂にもなるはずです。

■「海岸部に穴を掘り、がれきと土を混ぜ、かまぼこ状のほっこりしたマウンド（土塁）を築く。そこに、その土地の本来の樹種である潜在自然植生の木を選んで苗を植えていけば、10~20年で防災・環境保全林が海岸に沿って生まれる。この森では個々の樹木は世代交代　しても、森全体として9000年は長持ちする持続可能な生態系になる」

■「将来再び巨大な津波が襲来しても、森は津波のエネルギーを吸収する。東北地方の潜在自然植生であるタブノキやカシ、シイ類などは根が真っすぐに　深く地下に入る直根性・深根性の木であるため容易に倒れず波砕効果を持つ。背後の市街地の被害を和らげ、引き波に対してはフェンスとなって海に流される人 命を救うこともできる」

■「東北の海岸線に南北300~400キロ、幅30~100メートルほどの鎮守の森を再生できれば、緑の防波堤となるだけでなく、鎮魂の場にもなり、後世の人々が緑を満喫できる自然公園にもなる」

■がれきを使うことにこそ意味がある。根が浅いマツなどと違って常緑広葉樹は根が深く地中に入る。根は息をしており、生育には土壌の通気性が大事だ。土とがれきを混ぜることで通気性のよい土になる。木材など有機性の廃棄物はゆっくり分解し樹木の養分となる」

（2012.2.1 日本経済新聞より）

孫と留学

三世代プロジェクト

福田文子（旧姓：渡辺文子）

時折、ふとした瞬間に思い出されるイギリスの空気。私は今イギリスとは真逆といってもいい亜熱帯性気候の奄美大島に住んでいる…雨か曇りかのイギリスの夏に海に遊びに行くと聞いて本気で「何しに？」と聞いてしまったのも遠い昔の18年前。「今日、夕方難波先生に会いに行きましょう！」今年の夏、3年ぶりに東京の実家に3人の子どもと里帰りをした私に母が放った一言。しばしタイムラグを要するほど久しぶりに聞く名前…「ミッチーのこと？」16年ぶり？いつかまた会いたいと思っていたけど、こんなうっかり会っていいものか。駒沢大学駅についた私はミッチーを待ちながら16年前の記憶の中の彼女の姿を引っぱり出したり、並べてみたり。雨の中現れたミッチーはなんと！16年前のまんまで、「あれ？ミッチーいくつだっけ？」と聞く私にニヤニヤする顔も、知ってるよその顔！ってくらいまんま16年前。迷路みたいな道を抜けてミッチーの自宅兼事務所に着くと一足先におじゃましていた母と我が家並みに暴れるわが子たち…君達くつろぎすぎだよ。と制しにかかった私をそのままでいいじゃないと更に制され、飛び回る子ども達を背に会話の中心はだいたい子育てや現在の教育についてなどなど…そんな時にミッチーからひょいっと投げ出された言葉「来年、おばあちゃんと海外にステイしましょう！」長女の仁香は現在小学4年生…そんな、いつかは行かせられたらいいなとか思ってはいましたが、思ってはいましたが。来年って小学5年性じゃない早い早い、高校生くらいでいいんじゃない？とあわてる私に「大丈夫よ！お祖母ちゃんと留学だから」と一括されてしまった。私はイギリスにホームステイに行ったけど、結果英語を習得したわけではない。それでも海外に行くこと意義があると思うのは、それまでの自分の常識を簡単にぶち壊して真新しい世界を見せてくれる。これにつきるとおもう。自分ではどうしようもないカルチャーショックを受け、そして受け入れるしかない異文化。月並みのように思えていた「みんなちがってみんないい。」って言葉を噛みしめる。海外の方がいいから行くのではなく、海外に行ったら、絶対日本ってすごい！って思うはず。微かなガスの香り。暖かな木床で寝ころんでおしゃべり。霧雨に濡れる石畳。シャツ１枚で凍える男の子。オレンジ色のボール。［孫と留学］先は、イギリスか、ニュージランドかカナダか知らないが、異国の手触りを来年わが子は感じるのだろうか。

ニュージーランド永住権取得のご報告

難波先生

こんにちは。早速のご連絡、ありがとうございました。ミッチー先生からの連絡を頂く直前、つい先ほど、飯島から同じ話を聞きました。本当によく頑張ったと思います。こんなにも早くニュージーランド永住権を取得出来るなんて思っていませんでした。誰にも簡単には真似出来ない、あまりの偉業達成、拓也もやっと、これまでの努力と苦労が報われたと思います。そして、今まで拓也をサポートしてくださいました皆様のお陰と、心より感謝いたします。この、何よりも素晴らしい結果を長いこと支えて頂いたミッチー先生には、私たち家族は何とお礼を言えば良いのか、言葉が見つかりません。今、拓也は大きな目標を達成し、ひとつの区切りがつきました。しかし、ここで脱け殻になる事のない様、今後も拓也の事を、どうかよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。　　２０１３年８月３０日　　飯島良子

アメリカからのホームステイ

農業体験の外国学生を受け入れました

奥州市衣川区下川内　　高橋勝司

外国の学生を農業体験で受け入れの話しがあった時、一時は迷いましたが誰かが先駆けをしなければの想いで、米国はアーカンソー州ホットスプリングス高校三年女子学生四名の受け入れを体験しました。5月31日から二泊三日、外務省関連で日本国際交流センター東北支社が窓口で、前泊は花巻市、後泊は世界遺産登録の平泉を見学して一関市泊りのコースでした。息子や孫達は片言の英語で会話、老夫婦は単語とゼスチャーで結構通じました。短期間の中で積極的に体験しようとする姿勢が見られほほえましい光景でした。食事は何でも食べてくれました。自宅の近くには日本食堂もあって箸を上手に使って居りました。農作業は出来るだけ手作業を体験させました。日本農業の真ずいを経験させたいとも考えてのことでした。どんな作業にも本気で取り組む姿には感心させられました。鍬を持って畑を掘り、ハトムギの種を手で播き、簡易な播種機での体験も併用させました。たまたま地区のさなぶり会があり他に宿泊の子供達も呼んで地区民との混成チームでパターゴルフ大会をしました。思わぬところで地区の人達も国際交流を歓迎してくれました。地区出身の歌手も加わり、カラオケ大会では学生達のお国の歌も披露してくれたり、福引き大会での景品には大よろこびでした。作業の合間のこびる（福島の方言で「おやつ」のことだそうです）時間には田んぼの畦にブルーシートを敷いて手作りの料理に満足してもらいました。孫達のピアノで学生が弾き家の孫がオオボエでの合奏でいよいよ盛り上がり、学生達の指導でリトルポットの歌に合わせ皆んなで輪になり最後の夜を惜しみました。私達もお国なまりの英語で、クリスマスの歌やバースデーソングでサービスをいたしました。過ぎてしまえば、たった三日間でしたが沢山の思い出が出来たと快い涙を流して送り出すことが出来ました。立派な英語がしゃべれなくてもつなぎ合わせの単語と単語で初体験の国際交流が出来たことを今振り返って居ります。

Dear Michi

ご無沙汰してます。

昨年の今頃は、皆さんと気仙沼に行き、衝撃を受けつつ、復興を願い立ち上がっている地元の方たちの心に触れ、何かできることはないかと思案しているうちに1年たってしまいました。その間に、倭文先生から手作りの気仙沼報告アルバムが届き、様々な文献、資料を提供していただきました。

まだまだ復興には程遠く、心のケアもまだまだです。被災地から東京に転入した二年生の女子は、卒業式で旅立ちの日にが始まると、震えと涙が止まらず退出します。被災したのが卒業式の最中で、まさに旅立ちの日にを歌っている時だったということです。現地支援はもちろんですが、身近にいる被災者の支援も必要なんだと切実に感じました。高1の卒業生にプレゼンをお願いしてそれも1年たってしまって…。

この春休みにできる範囲で仕上げてみると言ってくれたので楽しみにしているとしかくころです。それが間に合うかどうかですが、自由が丘のトラットリア・チーボ楢で久しぶりに会えることになりました。

楽しみにしています。　　宇野より子

Congratulations!!

＊飯島拓也　　ニュージーランド永住権取得

＊齊藤史帆　　秀明高等学校入学